

http://moonlinx.jp/special_column/tokyo_design_report2009/2009/11/000663.php

ニールズ・ヴァン・アイクとミリアム・ヴァン・デル・ルブによる「ゴドガン・テーブル」は、労働賃金の安さからインドネシアで生産されるプロダクツが多いなか、「インドネシアの職人でしか作ることのできない技術」にスポットをあてた作品だ。驚くべきはその気の遠くなるほど精密な彫刻だ。時間と手間を惜しみなくかけた丁寧な仕事に心動かされる。



女性の隣人に贈る下着や、隣人間でやり取りする専用の郵便受けなど一風変わった作品が並ぶ。

マルタン・エンゲルブレクトによる「ご近所ショップ」にはユニークな

商品が並ぶ。背景には、中東、トルコからの移民問題を抱えるオランダの社会情勢があり、犯罪の多い今の時代、ご近所付き合いを深く持つことでその不安を改善したいという気持ちが込められている。日本にはあまり馴染みのない感覚だが、ブラックユーモアも入り交じる商品群は見ているだけで楽しい。無料でロゴマークを模したクッキーも配布中だ。